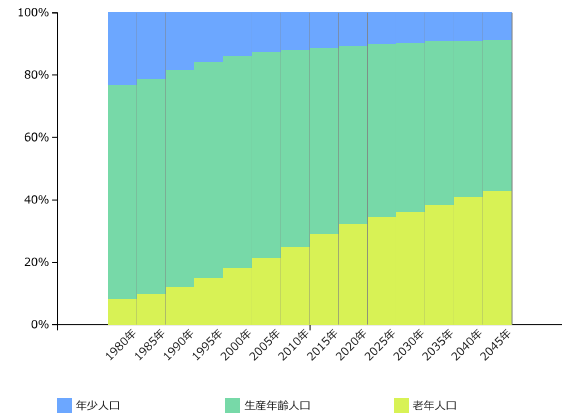
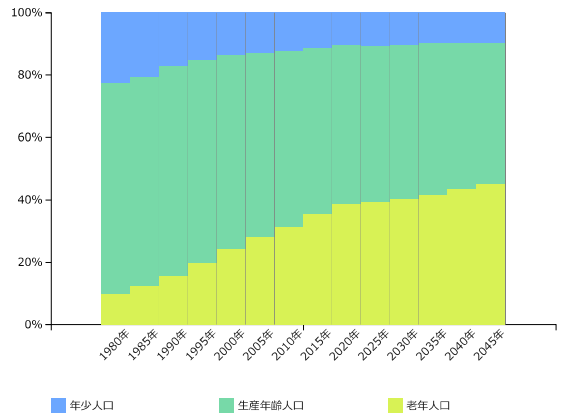
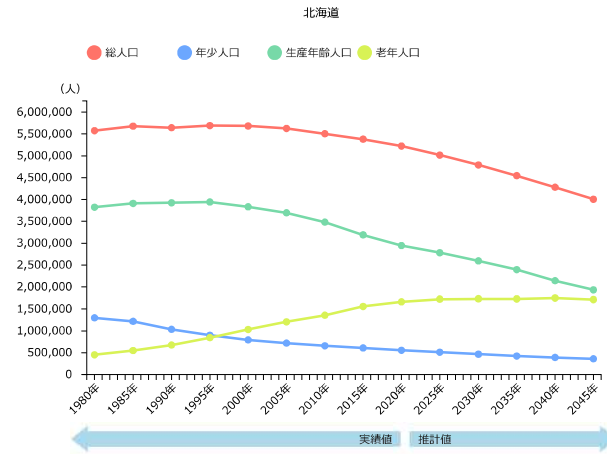
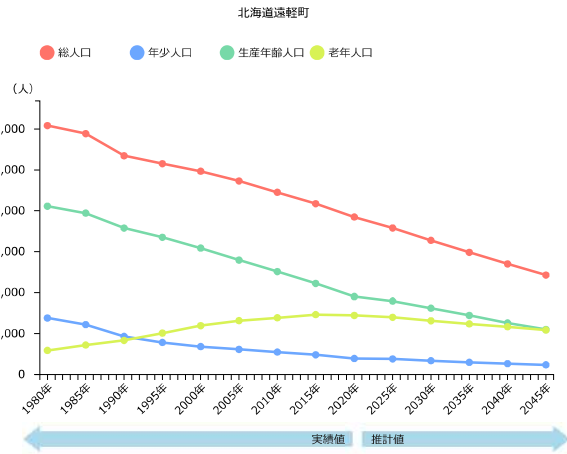


【目的】 総人口・年代別人口がどのように推移するか把握しよう。



【出典】
 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
 【参照メニュー】
 人口マップ→人口構成→人口推移

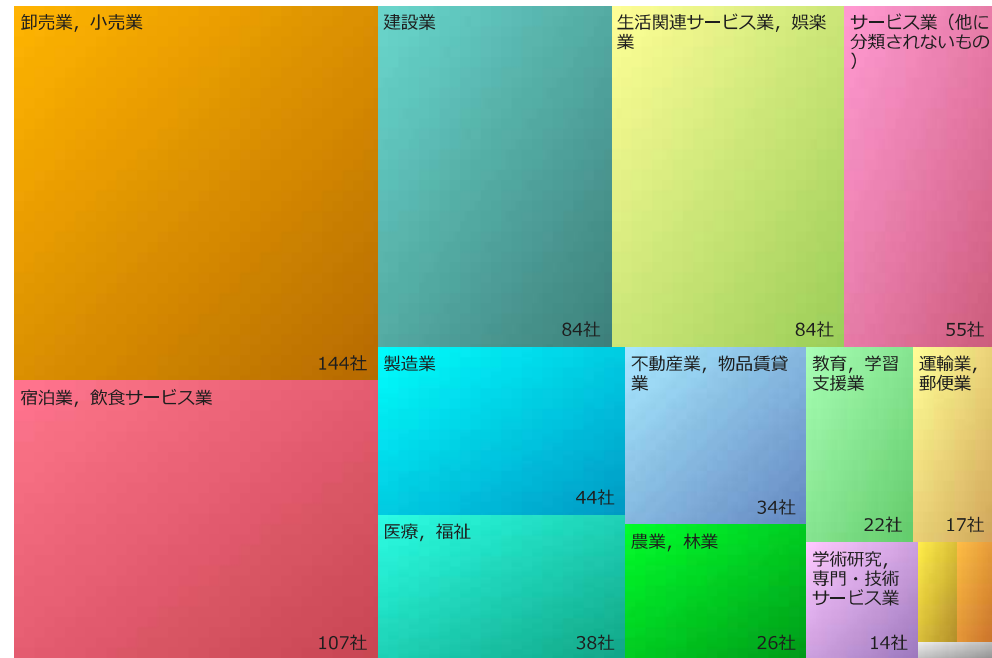
示唆 2020年の老年人口割合は北海道と比べて高い。
 2020年の年少人口割合、生産年齢人口割合は北海道と比べて低い。
 総人口は2020年と比較して2025年に93%、2035年に77.5%、2045年に63.1%になる。

【目的】地域の産業の全体像を把握しよう。

2016年 企業数(企業単位) 大分類

北海道遠軽町

企業数(企業単位) : 678社



上図以外の企業数(企業単位)の合算 : 0社

【出典】

総務省「経済センサス-基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工

【注記】

平成24年経済センサス-活動調査においては、東日本大震災の影響で、以下の7自治体の調査は行っていない。
福島県楢葉町、福島県富岡町、福島県大熊町、福島県双葉町、福島県浪江町、福島県葛尾村、福島県飯館村

【参照メニュー】

産業構造マップ→全産業→全産業の構造

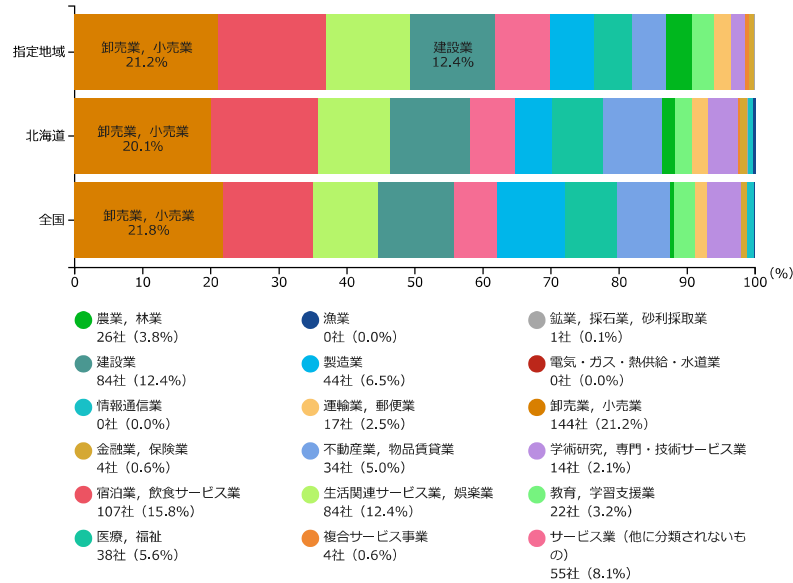
グラフ
の見方

企業数・従業者数・売上高・付加価値額などの観点から、各産業分類が占める割合を確認する。

【目的】地域の産業構造を全国の産業構造と比較しよう。

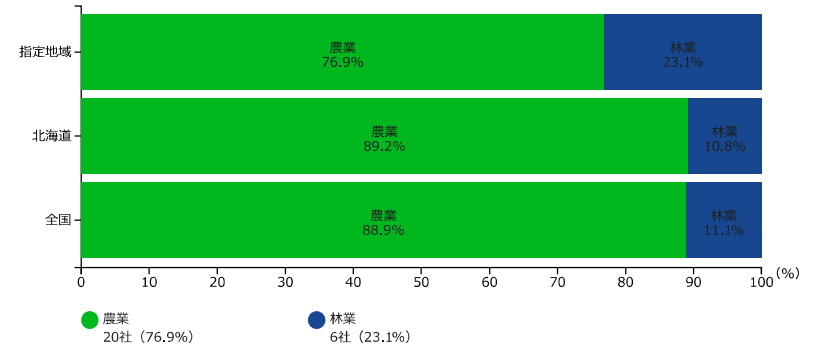
企業数(企業単位) 2016年

指定地域：北海道遠軽町



農業, 林業

指定地域：北海道遠軽町



【出典】

総務省「経済センサス基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」再編加工

【注記】

平成24年経済センサス活動調査においては、東日本大震災の影響で、以下の7自治体の調査は行っていない。
 福島県楢葉町、福島県富岡町、福島県大熊町、福島県双葉町、福島県浪江町、福島県葛尾村、福島県飯館村

【参照メニュー】

産業構造マップ→全産業→全産業の構造→横棒グラフで割合を見る

示唆

2016年において、全国と比較して企業数(企業単位)の割合が高い産業は「宿泊業, 飲食サービス業」、「生活関連サービス業, 娯楽業」、「建設業」、「サービス業 (他に分類されないもの)」、「農業, 林業」、「教育, 学習支援業」、「運輸業, 郵便業」、「複合サービス事業」、「鉱業, 採石業, 砂利採取業」である。

【目的】 滞在者が増える時期と減る時期を確認し、滞在者の季節変動を把握しよう。

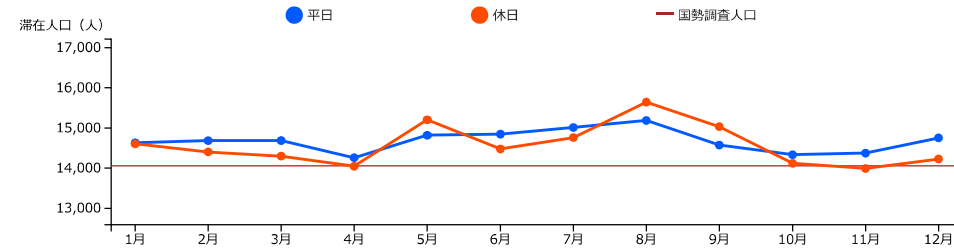
滞在人口の月別推移

北海道遠軽町

2022年 14時

総数 総数（15歳以上80歳未満）

（国勢調査人口：14,061人）



【出典】

株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」
総務省「国勢調査」

【注記】 +

【参照メニュー】 +

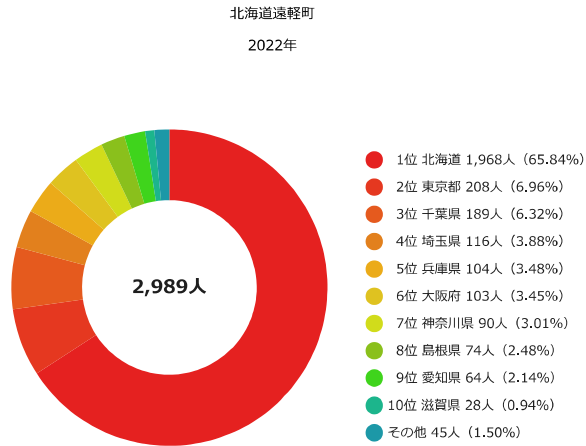
[\(C\) 2017 NTT DOCOMO, INC. & DOCOMO InsightMarketing, INC. All Rights Reserved.](#)

グラフから
読み取れること

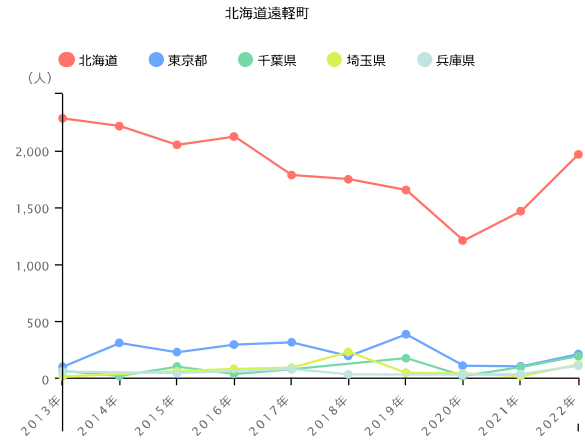
2022年の14時は休日の滞在人口は8月が最も多く、11月が最も少ない。
平日の滞在人口は8月が最も多く、4月が最も少ない。

【目的】 地域への宿泊者がどこから来るのか把握しよう。

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合



居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の推移



【出典】
観光予約プラットフォーム推進協議会「[観光予約プラットフォーム](#)」
【注記】 +
【参照メニュー】 +

グラフから
読み取れること

2022年の居住都道府県別の延べ宿泊者数（自都道府県を除く）は東京都が最も多く、2021年と比較して増加している。

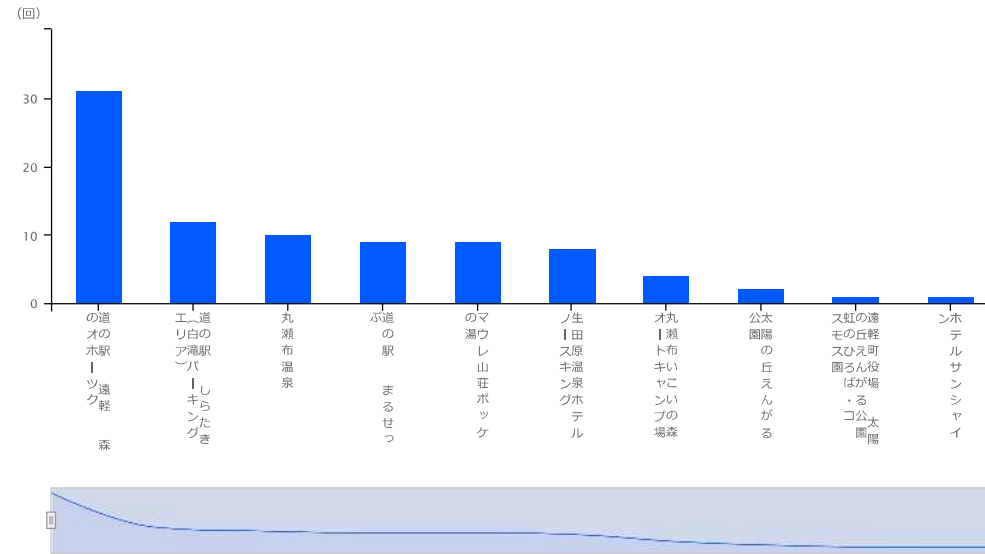
【目的】観光の目的地となっている施設を把握しよう。

指定地域の目的地一覧

北海道遠軽町

2023年3月（平日）

自動車



【出典】
株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」
【注記】 +
【参照メニュー】 +

[\(C\) NAVITIME JAPAN](#)

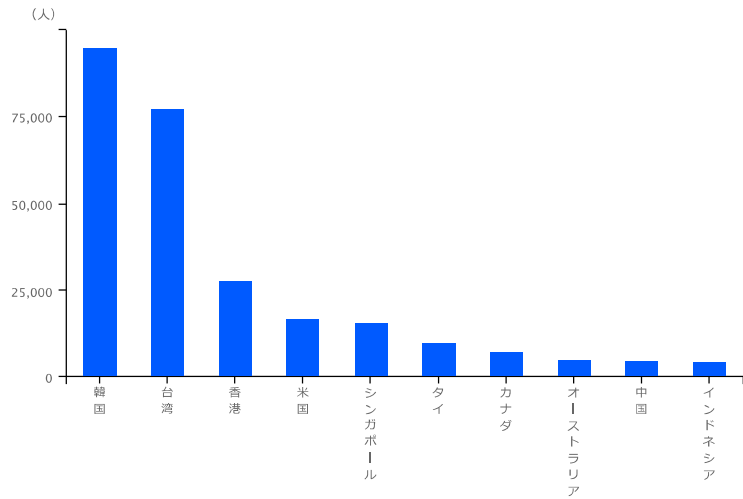
グラフの見方

前ページの流動人口メッシュを確認し、人口集中地域（赤いメッシュ）と本ページの目的地が一致しているかを確認する。
観光スポットに人が集まっていないのであれば、集まらない要因の分析を進めていくのはいかがでしょうか。

【目的】 国籍別訪問者数を確認し、外国人訪問客の現状を把握しよう。

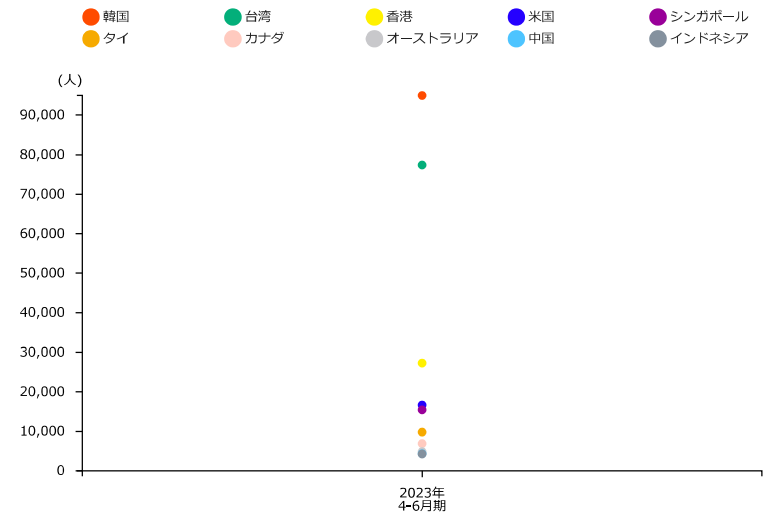
国・地域別訪問者数

北海道
2023年 4-6月期
すべての目的



国・地域別訪問者数の推移

北海道
2023年
すべての目的



【出典】

観光庁「訪日外国人消費動向調査」、日本政府観光局 (JNTO)「訪日外客数」

【注記】

すべての目的には、観光・レジャー目的、親族・知人訪問、企業ミーティング、研修等が含まれる。

すべての目的の場合、「地域別の訪日外客数=地域別の訪問率×訪日外客数」により推計している。

観光・レジャー目的の場合、「地域別の訪日外客数=地域別の訪問率【観光・レジャー目的】×訪日外客数×旅行目的別構成比【観光・レジャー目的】」により推計している。

端数処理の都合により「観光・レジャー目的の訪日外客数」が「すべての目的の訪日外客数」を上回る場合がある。

2011年の年間データは、4月から12月の9ヶ月間。

インドネシア、フィリピン、ベトナムについては、2014年1-3月からのデータ。

新型コロナウイルス感染症の影響により、観光庁「訪日外国人消費動向調査」の四半期調査は2020年4~6月期から2021年7~9月期は中止されている。

また、2021年10~12月期から2022年7~9月期および2020・2021年の年間値の国籍・地域別、都道府県別の数値は公表されていない。2022年10~12月期から2023年1~3月期および2022年の年間値の都道府県別の数値は公表されていない。

2023年4~6月期については2次速報値を用いて作成しており、確報値公表後に数値が変更される可能性がある。

【参照メニュー】

左図：観光マップ→外国人訪問分析→指定した都道府県で分析する

右図：観光マップ→外国人訪問分析→指定した都道府県で分析する→推移を見る

示唆

2023年に北海道を訪問した外国人の国籍で多かったのは、韓国、台湾、香港。